



K.I.F.A Plaza

第12号

1991年12月6日発行
〈発行〉
鎌ヶ谷市国際交流協会
編集・広報部会

活動 報告

鎌ヶ谷市制施行20周年記念事業

ワールドフェア&バザール

特別企画	新しい風	2・3面
写真特集	ワールドフェア & バザール	4・5面
活動報告	僕の私の海外体験	6・7面
あReこRe	報告、連絡、その他	8面



(タイ民族舞踊「シヴィチャイ」)

素晴らしい、タイ国の伝統文化との出会い

鎌ヶ谷市制施行20周年記念事業の一環として国際交流協会が主催しました、ワールドフェア & バザールの中でのロイヤルタイ舞踊団による公演。

民族衣裳に身をまとっての踊り、参観者の内からもそのはなやかさ、美しさのため息がもれ、異文化の理解が大きく広がりました。

(関連記事 4・5・8面)

新 い 風

オランダに住んで見て

北部小学校 6年 鳥本 桂一

ぼくは、お父さんの出張で、日本から約1万キロメートルぐらい離れたオランダという国へ3年間住んでいました。オランダでの生活は、初めの方は、なじめず早く日本に帰りたいと思いました。



オランダの生活になれてくると、地もとの小学校へ、(日本では保育園だったけれど日本とはちがう) 通うことになりました。オランダの小学校は、日本とくらべるとすこしかわっています。女の子はネックレス、指輪、イヤリングなどつけていて、みんな教室で、おかしなど自由に食べます。先生も朝は、コーヒーを飲みながら授業をします。授業の時間も先生が自由に決めます。授業は、英語、数学、体育、家庭科、読書がありますが、教科書、ノート類は、学校に置いておきます。昼になると1~2時間の休けいがあり、その時間は、家に帰ったり、学校で弁当を食べたりしてもいい自由時間です。

オランダの学校へ半年通うと、日本でいう1年生になりました。スクールバスで、1時間半ぐらい約90キロぐらい離れた日本人学校へ通うことにしました。スクールバスは、オランダ人のおじさんが運転していて、30人ぐらいが乗れます。日本人学校といっても、小学生の1年生から6年生、中学生の1年生から3年生までいますが、全校の人数は二百数十人です。

この学校は、1年生からオランダ語を習います。この学校のみんなの特技はなわとびです。それは、毎日スクールバスで帰るので、小学生の低学年は、高学年や、中学生の授業が終るまでの時間を利用してなわとびをやっているからです。そして、なわとびのテストというのを1年中やっており、あるレベルに合格したら、金銀銅のメダルやたてがもらえるのでみんな、一生けんめいに練習するからです。

なお、授業は、人数が少ないため、1学年で授業をする時間があります。けれど1学年といっても、多い所で、30~45人ぐらいで中学生の少ない所で10人もいません。体育の授業は、人数が少ないので2学年でやる時も週に1~2回はありました。

学校が終り、スクールバスで家につく時間は、ふつう5時から5時30分ぐらいですが渋滞の時は、6時から6

時30分くらいになります。毎日帰りがおそいので、遊ぶ時間がありませんでしたが、日本とちがいで、土、日曜は休みでした。

ぼくは、土、日曜になると、近くにある運河、自然公園、サイクリングコース、野原に遊びに行きます。もっとも好きだったのは、野原や行ったことのない所へ、自転車で、2才上の友達と探検する事でした。

オランダで、代表的な物といえば、風車、チーズ、チュウリップです。ぼくの家から車ですこいくと風車がかぞえきれないくらいあります。オランダの風車は、13世紀ごろ建てられ、17世紀ごろには、本格的に動力源として使われるようになったといわれています。

オランダには、いろいろなチーズがたくさんあります。

ぼくは、オランダに住み、牛乳など、たくさん飲むようになりました。

オランダで有名な所は、マドローダムです。小さな家、教会、ビル、道、風車、川、滝などいろいろなものがたくさんあります。

オランダの有名なおかしといえば、いろいろありますが、おどろいたのは、日本語でいうと黒あめというあめです。日本にある甘いあめではなく、長ほそくてにがいあめで、市役所、郵便局、銀行にもおいてあります。初めは、食べられなかったけれど、なれてくると平気で食べられるようになりました。

オランダと日本では、いろいろなことがちがいます。考え方もちがうと思います。そんななか、外国の人とふれ合っていくためには、おたがいを理解しようとする気持ちや、自分達の国の事、生活などを教え合わないとふれ合っていくにはいけないと思います。ぼくは、オランダという国へ行った体験を生かし、外国の人と日本の人がふれ合っていくようにしたいと思います。

日本に帰ってきて

南部小学校 4年 岩佐よし子

私は、お父さんの仕事の関係で、ようち園のころから、4年生の1学期までシンガポールに住んでいました。日本に帰ってきて、新しく友達ができるか、とても心配でしたが、みんな仲良くしてくれたので、ホットしました。



日本とシンガポールのちがいで一番おどろいたのは、学校の事です。シンガポールでは、スクールバスで、

お弁当と水とうを持って通っていましたが、今は、登校はんで、1列になって歩いて通っています。お昼は、お弁当じゃなくて、給食があってみんなと同じ物を食べます。最初は、なれなくていっぱいおこしてしまいました。

日本には、きまりがたくさんあります。そうじの時や体育の時に赤白ぼうしをかぶるとか、そうじを毎日やるとか、名ふだを付けるとか、きびしいことがたくさんあるので、あまり、きまりのないシンガポールの方がいいと思います。

シンガポールのいいところは、緑が多く、年中、花がさいていて、きれいなことと、毎日プールに入れることです。そして、中国人、マレー人、インド人などいろいろな国の人に会えることです。

私は、コーリンという中国人の友達があります。コーリンは、お父さんの会社の人の子どもで、時々、日本のおもちゃで遊びました。コーリンは、日本語がわからないし、私は、中国語がわからないので、英語で話しましたが、なんとなく通じて、遊んでいて、とても、楽しかったです。

日本のいいところは、季節があって、おいしいお米が食べられて、たまごが生で食べられることです。

シンガポールでは、小学校でも英会話じゅ業があって外国人の先生が教えてくれました。プリントをやったり、ゲームをしたりして、とても楽しかったです。でも、日本の学校は、英会話がないので残念です。英語が話せると、外国旅行に行った時、とても便利だし、日本でも外国人に道を聞かれた時など答えてあげられるので、ぜひ英語を勉強した方がいいと思います。それに、いろいろな国の人と友達になれるかもしれません。だから、小学校で、英語のじゅ業を作ってほしいと思います。

シンガポールでは、七夕集会にシンガポールの学校のお友達をしょうたいして、ささの葉にいろいろなかざりをかざって、たんざくに、願い事を書いたりしました。そして、おり姫とひこ星のげきを見せてあげました。

また、私たちは、テマセク校という学校にしょうたいされました。そして、色セロハンを使って、かべかけをいっしょに作りました。その後、ゲームをしたり、歌を歌ったりして遊んで、とても楽しかったです。

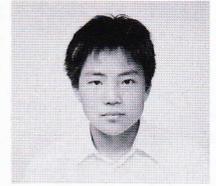
私は、これから、もっと英語を勉強して、今度コーリ

ンと、会う時には、いろいろなことを英語で話せるようになりたいと思います。そして、コーリンをびっくりさせたいです。

J.R.C.国際交流に参加して

鎌ヶ谷中学校 3年 渡邊 俊

僕は、今年の夏休みに、赤十字社千葉県支部の、青少年赤十字国際交流インドネシア派遣団の一員として、7日間、インドネシアに行ってきました。たくさんの貴重な体験をしました。その中から、中学生、または、高校生にも理解できる同じ年代の人達の出来事について述べたいと思います。



まずは、2日目のことです。インドネシア赤十字本社から、スカルノ・ハッタ空港へ向かっていた時のことです。国道とおもわれるような車がたくさん通る車道で、信号待ちをしている車の間を小さな子供が新聞を売り歩いていました。そうしないと生活をしていけないのです。

また、僕達を歓迎してくれた、国立第2高校の人達は、救急法をみごとに見せてくれました。最後の夜には、キャンプファイヤーをやりました。その時、むこうの子供達は、年齢に関係なくみんなが踊りを見せてくれました。これは、単に踊りが好きというだけではなく、自分達の文化を大切にしていこうとしているのだと思います。

僕は、他の国の人の生活を見たことで、自分を見直すことができました。普段の生活の中では、自分を見直すということは、歩いている時にふり返るような、特別な事だと思います。しかし日本を出ても、その場で見るものを自分の定規で見えていました。そうすると自分の事も見えてきます。そんな訳で自分の事も必然的に見直せました。それは、良かったのですが自分の尺度で見るということは、早い話が差別しているのと同じだということと一緒にいった先輩から聞きました。本当の国際人とは、どんな人を言うのか、まだまだ僕にはわかりませんが、今回の派遣で、国際人への一歩はふみ出せたと思います。

更に、鎌ヶ谷に来ている外国人と僕達ぐらいの子どもの交流があれば、新たな国際人が育つきっかけになるのではないのでしょうか。

〈国際化とは？ 子どもの声〉

今、世界は、国際化の波、風が押し寄せ、非常な速さで変化しております。また、私達は、国内に居ながらにして、世界の情報が把握できます。今程、子どもも、大人も、真の国際理解、国際交流、国際親善を意識させられる時はありません。

このような中で、地域における国際化を推進していくためにも、市民が主体となって、どう国際交流活動に取り組んでいくかが重要になってきました。

今回、鎌ヶ谷市の子ども達は、国際化について、どう考え、どう見ているか、そして、どう感じているか、「新しい風」に、市内小・中学校の児童・生徒に原稿を依頼し、何回かに分けて、連載していきたいと企画してみました。ご期待ください。



表情豊かで愉快的な山形弁で笑いを誘う
ダニエル・カール氏の講演



正面玄関前の巨大な arch に迎えられ会場へ

鎌ヶ谷市制施行20周年記念事業
平成3年度ハロー!
ふれあいフェスティバル地域大会
(婦人国際交流フェスティバル)



鎌ヶ谷市の国際化・国際交流の促進を図ることを目的とした国際色豊かなワールドフェア&バザールでの各コーナーのスナップを特集しました。



モンゴル国の紹介と体験談で熱弁をふるう
八幡一三夫氏



新鮮野菜の即売コーナー



市役所職員ハムクラブの交信風景





日本ユニセフの写真展示コーナー
「ストリート・チルドレン」…都市化が生んだ小さな犠牲者たち

雀



ロイヤルタイ舞踊団による華麗な民族舞踊



一段とにぎわいを見せる外国製品バザール会場



手さばきもあざやか わたあめのサービスコーナー

ほくの わたしの 海外体験

外国で生活して

第三中学校 2年 来留島恒司

僕は、小学2年生から中学2年生の1学期までの間、カナダに住んでいました。その6年という長い期間を外国で過ごして、日本と異なる事がいくつもありました。

その中でも、一番驚いたのは物価があまりにも安かったことです。日本では値段の高い牛肉もカナダでは安く買えました。日本産の電気製品も日本で売っている値段に比べたら安い方でした。カナダで6年間も住んでいると、向こうでの物価があたりまえのように思いました。そして、日本に戻ってきたら急に一つ一つの品物が高く感じました。

他にも驚いたことがいくつもありました。カナダでは、電車が1本しかなかったので、交通は車や自転車などでした。歩道を歩いていると、会う人はごく数人です。しかし、会う人はみんな親切です。見知らぬ他人の僕が道を聞いても、嫌な顔を少しもしないでていねいに教えてくれます。家から近い場所に行く時は、たいてい自動車を使います。カナダでは車が必需品です。だから、たいていの家には車があります。バスを利用する時もあります。しかし、カナダの停留所は名前がついていないので、常に自分の降りる停留所に着くまで見てないといけません。僕は、バスを利用するのはとても不便だと思います。

学校は日本と違ってとても自由です。校則はあまり厳しくなく、数えるほどしかありません。私服で登校し、始業時間は日本より遅いです。学校は週5日制です。学校には、いろいろな人がいます。例えばアジア系の人、ヨーロッパ系やアメリカ系の人などさまざまな人が同じ学校に通っています。宗教やひふの色などが違う人たちが同じ学校にたくさんいるのに、誰も差別などしません。それどころか、相手の持っている特徴などをうらやましがります。昼休みは弁当を持っていったり、家へ帰って昼食を食べる人もいます。家へ帰る場合は、よく何人が集まって帰ります。そういう時は、相手の親と話す機会が増えるので、親しくなります。カナダの学校は、あまり宿題やテストが出ません。あまり宿題がでないので、自分で勉強する人もいます。そういう人たちは、他の人と比べて成績がびっくりするほど違います。僕は日本とカナダの学校の違いを見て、それぞれ長所や短所があることに気がきました。

カナダの学校では、部活動がありません。そのために子供はよく町内の水泳チームやアイスホッケーチームに入ります。子供たちは、自分から進んで入り熱心に練習

などに参加します。親も自分の子供の姿を見て、試合になると興奮します。僕自身も町内チームに入っていました。そして、僕の事を応援してくれる人がいると、僕の力が認められたんだなあと思います。

僕は、6年前カナダに引っ越した時は、英語ができませんでした。それが今は英語ができ、友達もたくさんできました。カナダでは、いろいろな人が住んでいます。しかし、みんな互いに協力しあいながら、暮らしています。僕は、そういう態度をもつことが大切だと思います。

初めて、言葉の通じない国へ行っても心で通じ合い、いろいろ協力しあいながら、待ち受けている困難を乗り越えます。そうすると、その国の良さが理解でき、その国へきてよかったなあと思うような気がします。

アメリカで過ごした2年間

道野辺小学校 6年 柿沼 忍子

1985年の11月から1987年の2月まで父の仕事の関係でアメリカで過ごしました。私が1年生から3年生にかけてのことでした。

私のアメリカでの「思い出作り」は、たったの2年で終わってしまいました。友達がたくさんできて、いろんな経験ができアメリカに行って本当に良かったと思っています。

住んでいた所はカルフォルニア州にあるクパティーノという町で、通称シリコンバレーと呼ばれている、緑に囲まれたとてもきれいな町でした。

私はレグナートスクールに通うことになりました。黄色のスクールバスから降りると校長先生がニコニコしながら、日本人の女の子と手をつないで、待っていてくれ、とてもうれしく思いました。そして、学校の中を案内してくれました。クラスに行っても何が何だかわからなかったけど、みんなやさしくしてくれ、だんだん慣れていきました。

学校には、スナックタイムといってその時間だけスナックを食べてもいい時間があり、こんなことは、絶対に日本では考えられないと思いました。

次にランチタイム、食事をして遊びの時間です。勉強は、わけがわからなかったけど、先生がとてもわかりやすく教えてくれました。日本ではダメだけどアメリカでは算数はよくでき、みんなが算数をしている時、私はコンピューターで遊んでいました。コンピューター室には、コンピューターがいっぱいあり、自由に使ってもいいのです。さすがアメリカだと思いました。

私は週に2回、レグナートスクールが終わってから、私立の三育学院に通い、また、週に1回、公立の日本人学校に通っていました。三育学院は、ミッションスクールで先生達は優しく、少しでも日本人と同じ内容の勉強をしようと、一生懸命教えました。お母さん達も、私達も

一生懸命でした。

クリスマスは教会で歌を歌い、正月は教会の人達と、もちつき大会をしました。春にはピクニック、夏には運動会と、日本とは少しちがうけどとても楽しかったです。

もう一つの日本人学校は土曜日にあり、ほとんどの日本人がここの学校へ全部集まるので、ハイスクールを借りて授業をしました。お母さんたちも、ピックアップタイムになれば、大ぜい集まるのでペチャクチャ話をして、楽しそうでした。

日本とアメリカの両方の勉強をしなくてはならなかったけど、みんなやっていることなので、私もできたんだと思います。今思うとアメリカでの2年間、私達を温かく迎えてくれたアメリカの人達に「どうもありがとう」と、感謝の気持ちでいっぱいです。

そして今はこまっている外人をみかけたら助けてあげようと思っています。THANK YOU!

インドネシア訪問を終えて

第五中学校 3年 佐竹 ゆか

私はJRCの一員として8月5日から11日までインドネシアを訪問しました。向こうへ行き、生活を通して感じた事は貧富の差が激しいことでした。車から外の風景を眺めていても、その事が良くわかりました。ビルが建ち並んで都会の様になっている所もあれば、バラック小屋の様な家がひしめき合っている所もあります。ベントの車に乗りスーツを着ている人もいれば、車と車との間を歩き、物を売って生活を支えている人もいますという状況でした。私たちはホームステイの時、自由時間を使って近くの学校で子供たちと遊ぶことが出来ました。

しかし遊びが終わり帰る時、私たちに何か言っています。何だか両手を差し出している様です。私たちはそれを理解することができませんでしたが後で通訳さんに聞いてみると、お金の単位を示しているのだと言う事でした。それを聞いてとても腹が立ちましたが、考えてみるとそれだけ生活が苦しいのだという事になります。こうして貧富の差、生活難が眼で見えることはとても悲しいことだと思いました。

そしてもう一つ生活を通して感じた事は、食物、生活様式が違う事でした。私は食べ物でとても悩まされました。私は、食事の仕方、トイレ、お風呂の使い方等、どれ一つとして克服することは出来ませんでした。

この訪問で一番嬉しく感じた事は、全く知らない外国人と接し、それが良い方向に進んだ事です。初めて会った時、とても怖い人たちに見えました。自由時間の時「遊べ」と言われ、どうして良いかわからずあたふたしていました。しかし、何か身振りをすると相手もそれに応えようと努力してくれるのです。それが何とも言えないくらい嬉しくてたまりませんでした。言葉が通じなくても相手の身振りや表情で、言いたい事ややって欲しい事がわかるのです。この事で、私の訪問前の不安がいっぺんに何処かへ行ってしまいました。最後の夜のキャンプファイヤーではもうみんな国境を越えた友達でした。相手の名前を呼び合いそばにいる、それだけで良かったのです。言葉など必要ではありませんでした。

この経験はとても貴重なものであり、今までにない感動でした。もちろん得た事はたくさんあります。そして自分のマイナス面も見ることができました。これを機会に自分をもう一度見直そうと思います。

新しい風

東初富(大学生)川端威智子

私達の国日本は、政治・文化・思想その他各分野において、常に国際的な諸条件のただ中にあり、また国際的に影響を及ぼしつつあります。私達は、これらのことに無感心ではいられないと思います。

日本は、資源に恵まれない島国です。従って、日本は貿易(経済)を軸として国際社会に多くの影響を与えているということになります。まさに貿易は、日本の生存にかかわる重要事項であるので、その意味においても、国際社会との関係は我が国にとって最重要課題だと思います。

しかし、国際関係・国際協調というものは忍耐を要する問題です。武力によって短期の間に国際問題を解決しようとする戦争に対して、国際協調とは、長期にわたるものであり、一層のねばり強さを必要とするものだと思います。現状では、時には日本に対する風当たりも強い

と身受けられます。このような状況で、海外からの「風」に対して、私達がおこすことのできる「風」は、静かに穏やかに吹く中にも新鮮さと強さを持ち合わせた「風」だと思います。特に私達若い世代には、一度に影響を及ぼし、結果の出る頼れる荒々しい「風」を吹かせるには力不足です。しかし、私達は、世界の未来をよりよきものにしようという希望や活力を身につけている上に、それらは、発展し拡大するものだと思うのです。ですから、はじめは弱々しい「そよ風」も、自分達(日本)の立場のみを考えることなく、相互理解の精神を育ててゆけば、しだいに他国の「風」と調和し、心地よい「風」へと成長してゆくと思います。そして、その「風」は時には、刺激的に、時には、ねばり強く吹き、そして出来る限り長く吹かせなければならぬでしょう。

現世の揺れ動く世界では、静かに調和し続ける「風」を吹かせるのは容易なものではないと思いますが、微力ながらも、自分に臆することなく吹かし続ける「風」こそ、本当の「新しい風」なのだと思うのです。

国際交流講演会

ダルエル・カールはかく語りき
テーマ：アメリカと日本の家庭



10月6日の日曜日の雨の中、ロイヤルタイ舞踊団の民族舞踊に続いて、満員の入場者の中で講演会が開催された。

開口一番、鎌ヶ谷市は若い街で、東京と違った新しい文化が作られるのではないかと、という外交辞令をいただいた後に、日本との出会いが、古い日本に憧れてやって来て近代日本を初めて目にした時のカルチャーショックで始まった、と日本の情報が海外によく伝わっていなかった話から切り出された。そして、日本に12年間に在った経験と日本の各地、特に山形県で中学・高校の語学指導教師をした体験を基にして、外国人の目から見た日本の家庭とアメリカの家庭のちょっとした不思議なところをユーモラスな身ぶり・手ぶりと巧みな日本語で熱弁を奮い、1時間半があつという間に過ぎてしまったひとときでした。

今の日本は、新しいおもしろい文化が生まれて来ようとしている。その中で新人類・旧人類を問わず、守られている文化的ポイントが日本の家庭の中にあるということで、日本とアメリカの違いを表わす、「謙遜」「直訳できない言葉～比喻」「察し・察すること」「以心伝心」4つのポイントが述べられたが、結局は言葉とか習慣とか考え方のちょっとした違いを表わしているだけで、それらは全て表面的なところのものである。今まで世界のいろいろな人々と付き合ってきて、表面的にはいろいろ違いがあるが、結局内面的には、基本的なところ、中身のところは大体同じである。人間が求めているものは同じものである。

友達がほしい、平和に暮らしたい、平和に仕事したいということだ。どこの国に行っても、平和と友情を捜しているのではないかと。表面的に違っていても、根本的には人間というものは人間だ。だから、これからは、国際化時代の中にも外国人と接触するチャンスはだんだん増えてくる。その時に、それだけを覚えていればコミュニケーションも取り易くなるし、楽しくなるのではないかと。

言葉が違う、顔が違うということがあるけれども、結局その人も心の中は我々と、皆んなと同じところのものを望んでいるから、国際化時代は明るい未来を持っているのではないかと、私は楽観しています。と締めくり大変有意義な講演会でした。

姉妹都市提携調査 着々と進行中

現在、姉妹都市提携候補地をアメリカ合衆国、西海岸に限定し、カリフォルニア州6都市（オックスナード、ハイランド、サンレアンドロ、サンタローザ、ペタルマ、モントレ）を選出し、現地からの資料収集等調査に取りかかっています。

鎌ヶ谷市国際交流協会オリジナル Tシャツ・ナイロンジャケットはいかがですか

国際交流協会では、協会シンボルマーク入りのTシャツ及びジャケットを作製しました。表面3色、裏面4色刷りのすてきな物です。

Tシャツ 1,500円

ジャケット 4,500円



ご希望の方は市役所3階K I F A事務局まで

「新しい風」に投稿のお願い

近年の国際化、情報化が急速に進展し、世界に「新しい風」が吹き荒れております。

これらに対応するためには、正しい国際理解と豊かな国際感覚を身につけることが今こそ急務であると考えます。地域の国際化の促進と活性化を図る上からも、皆様のご意見を寄稿して下さるようお願いいたします。本紙を皆様と一緒に育てて行きたいと考えていますのでご協力の程をお願いいたします。

編集後記

☆ 本号が1991年の最終号となります。

部会員4名、他部会よりの協会員1名のスタッフで誠意をもって、編集、製作にたずさわってまいりました。不備な点が多々あったと思いますが、ご容赦いただきたいと存じます。

尚、会報誌の一層の充実を期してまいりたいと考えていますので、多くの会員の皆さんの入部をお待ちしています。

☆ 今回のK I F A Plazaの作成は、ワールドフェア&バザールに広報部員として写真を撮りに行くことから始まりました。写真の出来は、あまり良いとは言えませんが、私としてはこの時点から参加できたことを嬉しく思います。まだまだ未熟者ですが、みなさんの仕事を見習って、もっと勉強していきたいです。だんだん広報がおもしろくなってきた今日この頃です。

(M. Y)